實性寺 表千家茶道の11月稽古

残月亭写し「聴松軒」での稽古

聴松軒

清風万里秋

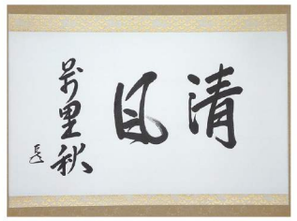
11月の稽古

〈5回に分けて〉

一、 炉開き
一、 初炭
一、 濃茶
一、 薄茶

道具組

［掛物］ 而妙斉「清風万里秋」
［花入］ 輪無し二重切
花 「椿・西王母」「丸葉・紅葉」
［釜］ 柏葉
炉縁 真塗
五徳 中爪
［水指］ 瀬戸一重口
［香合］ 伊賀 楓
炭斗 ふくべ
羽根 犬鷲
火箸 少庵型
灰器 備前
灰匙 少庵型
鐶 石目
釜敷 緞紙紙釜敷



掛物

花入

釜

水指

香合

炭斗

［茶入］ 利休型丸壺
仕服 緑地間道
［茶器］ 真塗中棗
［茶碗］ 黒 玉藻焼
替 京焼 清閑寺もみじ
〃 粉引 白雲洞
［茶杓］ 寛道老師「松涛」
建水 唐銅 エフゴ
蓋置 竹引切り
［菓子器］ 根来 一文字食篭
［干菓子器］ 先代住職 四方もみじ
菓子 とらや「淡路潟」
「亥の子餅」「紅葉重ね」
「御好生田森」
干菓子 「梅しぐれ」伊織製「松ぼっくり・イチョウ煎餅・飴松」
莨盆 惺斎好 竹手付・松スリ漆
［火入］ 徳泉 染付
莨入 タイ産
［濃茶］ 「楽寿の昔」 柳桜園
［薄茶］ 「珠の白」 柳桜園

茶入

茶碗

替

茶杓

菓子器 干菓子器 ひき茶 茶うす

稽古の内容

❖初炭 1、柏葉釜
釜は、姥口にて、炉縁より5分下げて据える。
2、ふくべ炭斗
ふくべ炭斗は、乱組にて炭を組む。（炭斗の型によっては乱組することあり）
3、紙釜敷
男女別のあつかい。

❖濃茶

❖薄茶

❖ひき茶
猶有齋好「楽寿の昔」三斤

茶うす
逆時計回りに廻す。廻すスピードが慣用。早すぎても遅すぎてもお茶は上手にできません。早すぎると荒くなり、舌にあたります。5人分お茶を摺るのにかなりの時間がかかります。美しいお茶を点てるには、やはり真心が必要です。

❖ねり香
独身の香の配合にてハチミツ・酢でねり、まるめてねり香をつくります。